

令和5年10月19日
16時00分～
宇都宮市役所本庁B1中会議室

宇都宮市大谷地域観光交通対策推進会議（第2回） 次第

1 開会

2 議長あいさつ

3 説明事項

- (1) 令和5年度の実施内容と実施結果について
- (2) 令和6年度の取組（方向性）について

4 その他

5 閉会

○出席者（敬称略）

所 属		氏 名	備 考
宇都宮大学	准教授	長 田 哲 平	
	教授	横 尾 昇 剛	
関東自動車(株)	路線バス部課長	荒 井 幸 二	
栃木県タクシー協会	専務理事	鉢 村 敏 雄	
城山地区コミュニティ協議会	会長	菊 地 重 栄	
城山地区連合自治会	会長	福 田 公 生	
大谷商工観光協力会	会長	大久保 裕 之	
宇都宮観光コンベンション協会	事務局長	緒 方 秀 徳	
栃木県警察本部	交通規制課長補佐	鈴 木 克 範	
宇都宮中央警察署	交通総務課係長	佐 山 茂 幸	
栃木県	交通政策課長補佐	原 田 和 彦	
	道路整備課長補佐	長 瀬 政 明	
	宇都宮土木事務所 企画調査課長	神 山 雅 行	
宇都宮市	交通政策課長補佐	鈴 木 祐 介	
	大谷振興室長	松 本 剛	
	技術監理課長	野 中 正 久	
	道路建設課長	今 井 正 久	

[事務局：交通政策課，観光交流課 大谷振興室]

第2回宇都宮市大谷地域観光交通対策推進会議

【概要】

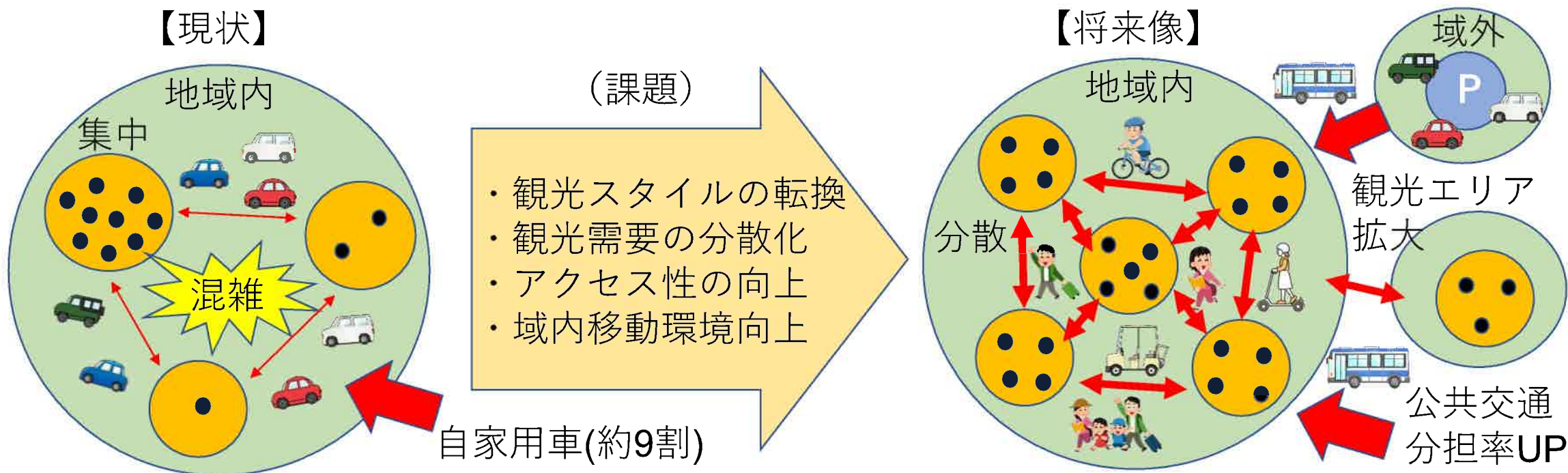
令和5年度の観光交通推進事業の実施結果と令和6年度の取組(方向性)について意見交換するもの

令和5年10月19日
宇都宮市 経済部 観光交流課 大谷振興室

1. 大谷地域の目指す交通環境（将来像）
2. 大谷地域における交通対策の進め方について
3. 令和5年度の実施内容について
4. 令和5年度の実施結果について
5. 令和6年度 of 取組（方向性）について

1. 大谷地域の目指す交通環境（将来像）

本市の観光拠点である大谷地域において、目標とする年間観光入込客数120万人の実現に向けて、**誰もが安全かつ快適に来訪し、地域内を周遊・滞在できる交通環境**の構築を目指す。



- ・自動車中心の観光スタイル（来訪・域内移動）
- ・特定の観光施設へ来訪が集中
- ・歩行空間等が十分に確保できていない
- ・大型連休（GW・お盆）のピーク時に混雑が発生

- ・自動車以外でも便利に来訪できる
- ・徒歩や自転車，その他の地域内交通で安全かつ快適に周遊
- ・長時間の滞在を楽しめる観光地
- ・年間を通して賑わう観光地

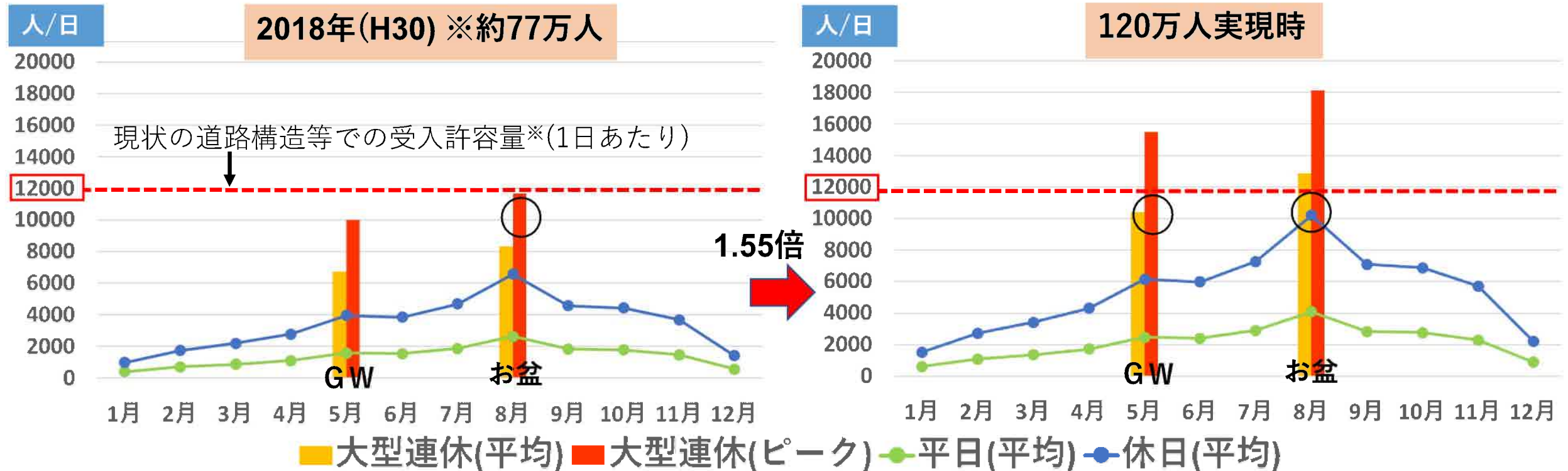
2. 大谷地域における交通対策の進め方について

第1回会議資料抜粋

市

◎120万人実現時に想定される状況

- ➡ 観光入込客数が120万人を達成した場合、近年で最も入込客数が多かった平成30年の実績値 **約77万人**の**約1.55倍**となる。
- ➡ 来訪の傾向が現在と同じと仮定すると、120万人実現時の大谷地域への来訪者数(平均・ピーク)の推計は以下のグラフの通り



※R1に実施したマイクロシミュレーションの結果によると、現状の道路構造等での受入許容量は、大谷資料館への来訪者数を基準に考えると、1日あたり約7千人(ピーク1時間あたり1千人)と推計される。資料館の来訪者は地域の約6割を占めることから、地域全体で考えると1日あたり約12千人($\div 7 \text{千人} \times 1.67$)となる。

2. 大谷地域における交通対策の進め方について

第1回会議資料抜粋

市
City

期間	令和1～4年度	直近：令和5～6年度	短期：令和7～9年度	中期：令和10～12年頃
観光入込客数	—	年間 80 万人に対応	年間 100 万人に対応	年間 120 万人に対応
達成イメージ	<ステップ①> →即効性のあるソフト対策により、大型連休における交通混雑を緩和 (主な取組) 交通誘導・混雑情報発信・グリスロ運行	<ステップ②> →地域内の移動環境向上、ハード整備による交通容量拡大 (主な取組) グリスロ運行・案内機能の充実・交差点改良・歩行環境の向上	<ステップ③> →地域内を徒歩・自転車・グリスロ等で周遊する観光スタイルへ転換 (主な取組) パーク&バスライド・歩道整備・域内移動手段の充実	<ステップ④> →観光エリアの拡大に伴う導線の整備 →広域連携による観光需要の分散化等 (主な取組) 各交通モード間の連携強化・広域エリアマネジメント
道路 (域外からのアクセス向上)	・県道 70 号宇都宮今市線大谷交差点の改良【県】	・宇都宮今市線の改良【県】 ・通過交通の迂回を誘導する看板の設置	・宇都宮今市線の改良【県】 ・(仮称)大谷 SIC の供用開始 (R7 目途 ※用地取得が順調に進んだ場合) ・(仮称)大谷 SIC からの案内誘導看板の設置	・宇都宮今市線の改良【県】 ・エネルギーコアにおける周遊性の向上 (短期～)
道路 (域内の交通円滑化)	・市道 632・635 号線における歩行、自転車等走行空間の確保(第1期)(～直近) ・観音橋周辺の改良(拡幅)(～直近)	・大谷寺前交差点の改良(ラウンドアバウト) ・市営駐車場前の横断対策(路面標示)	・観光の裏道ルートにおける周遊性の向上(～中期) ・市道 632・635 号線における歩行、自転車等走行空間の確保(第2期)	・市道 632・635 号線から拠点施設への歩行、自転車等走行空間の連続性を確保【県道区間】
駐車場	・満空情報の発信及び誘導方法の改善 ・臨時駐車場(地域内・フリンジ)の確保	・効率的な情報発信、誘導方法の検討 ・臨時駐車場(フリンジ・地域外)の検証	・臨時駐車場(地域外)の確保(継続)	・臨時駐車場(地域外)の確保(継続)
河川	・姿川の改修計画【県】	・姿川上流への調整池整備【県】	・管理用通路を活用した歩行、自転車等走行空間の確保(～中期)	・姿川の河川改修完了(R12 予定)
道路沿線	・街並み景観の改善(継続) ・大谷公園参道の改修	・大谷コネクットの整備(R5.11 供用開始) ・観光客向けの案内看板の充実(～短期) ・歩行者滞留スペースの確保(～短期)	・大谷公園の再整備	・景観公園の再整備
公共交通 2次交通	・観光型 MaaS 等の社会実験の実施 ・路線バスの上限運賃制度の導入 ・グリスロの試行	・路線バスの充実 ・フリー乗車券等検討・導入 ・バス待合環境の整備 ・シェアリングサービス等の検証 ・グリスロ運行体制強化等	・シェアリングサービスの導入 ・東武鹿沼駅、JR鹿沼駅との連携強化 ・域内移動手段の提供(グリスロ運行の継続)	・県内観光地との連携強化 ・域内移動手段の提供(グリスロ運行等の継続)
交通規制			・大型連休のピーク時間帯における観光の中心エリア(センターコア)への自動車流入規制の検証	・大型連休のピーク時間帯における観光の中心エリア(センターコア)への自動車流入規制
パークアンドバスライド	・パークアンドバスライドの試行	・パークアンドバスライドの有効な手法の検証	・大型連休におけるパークアンドバスライドの実施	・パークアンドバスライドの実施
情報発信	・混雑ピーク日分散化(継続) ・社会実験等の取組の発信	・地域内における観光需要の分散化(継続)	・周辺観光施設と連携した観光需要の分散化(継続)	・周辺観光施設等と連携した観光需要の分散化(継続)

網掛け 〓 今後実施を検討していくもの
 二重線 〓 実施予定
 下線 〓 実施中
 太字 〓 実施済
 赤字 〓 R5 観光交通推進事業の取組

3. 令和5年度の実施内容について ※ 詳細は別紙参照

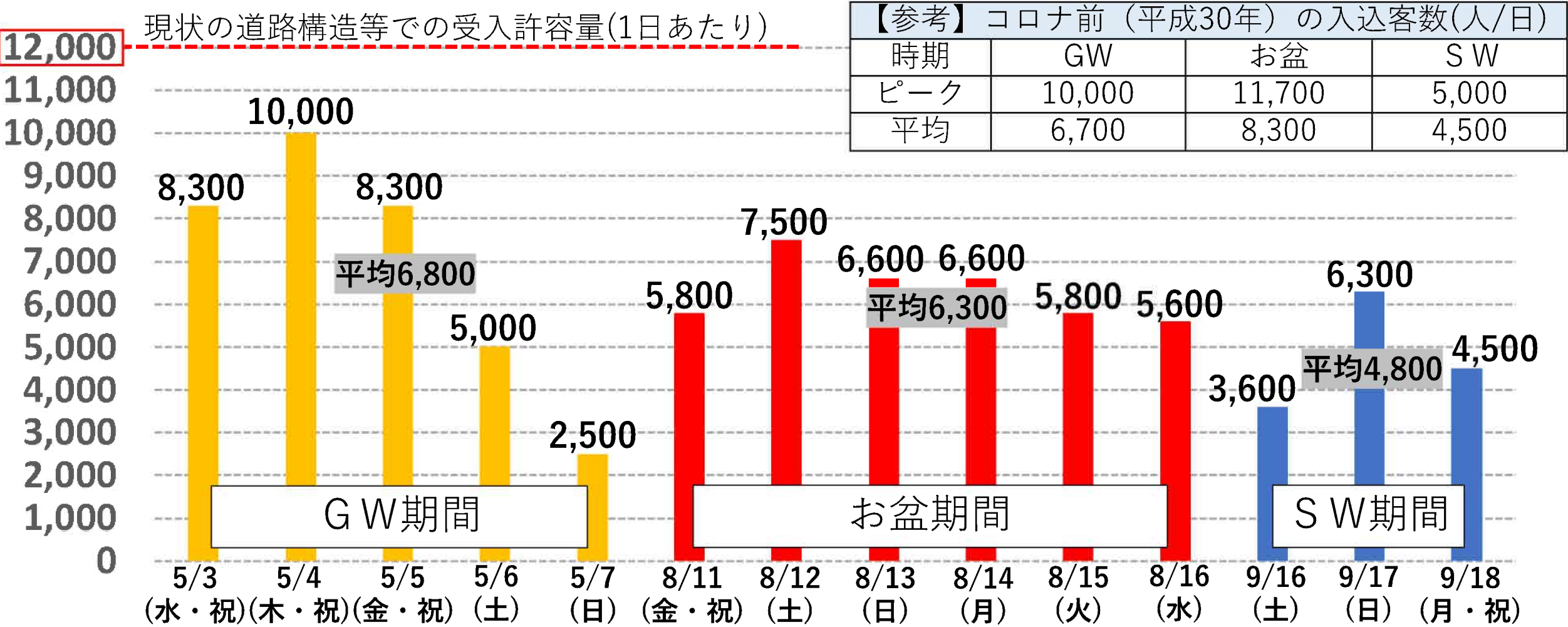
実施時期	G W	お盆	S W
日程	5月3日～7日 計5日間	8月11日～16日 計5日間（※15日は台風の 影響により中止）	9月16日～18日 計3日間
時間	午前10時～午後4時（6時間）		
実施内容	混雑情報の発信	混雑情報の発信	混雑情報の発信
	駐車場の配置・運用 地域内：計700台 地域外：計250台	駐車場の配置・運用 地域内：計700台 地域外：計250台	駐車場の配置・運用 地域内：計700台
	パーク＆バスライドの運行 30人乗りマイクロバス2台	パーク＆バスライドの運行 30人乗りマイクロバス2台	
	グリーンスローモビリティの運行 4人乗り・7人乗り・8人乗り各1台 計3台	グリーンスローモビリティの運行 4人乗り・7人乗り・8人乗り各1台 計3台	グリーンスローモビリティの運行 7人乗り・8人乗り各1台 計2台

※ 上記とあわせて、アンケート調査，交通量調査等を実施

4. 令和5年度の実施結果について

◎大型連休期間における大谷地域の入込客数の推移（推計）

※ 主要観光施設へ聞き取りした来訪者数を基に推計



4. 令和5年度の実施結果について

景観公園前三差路の様子 (8/12)

大規模な混雑はなかったものの、以下の交差点において、一時的な車の連なり(最大15台ほど)が発生した。



- ①狭隘な橋の上を流入・流出する車と歩行者が錯綜している
- ②バスから降車した歩行者の列が横断歩道を渡っている間に車が連なってしまう
 - ※ バスベイに入らないバスも見受けられる。
 - ※ ただし、バスベイに停車した場合や混雑時に誘導員が横断歩道を渡る歩行者の誘導をした場合には、交通の安全と円滑が図られた。
- ③三差路で流入・流出・通過する車が混在し、交通誘導が困難

4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査(抜粋) ①訪問回数・移動手段

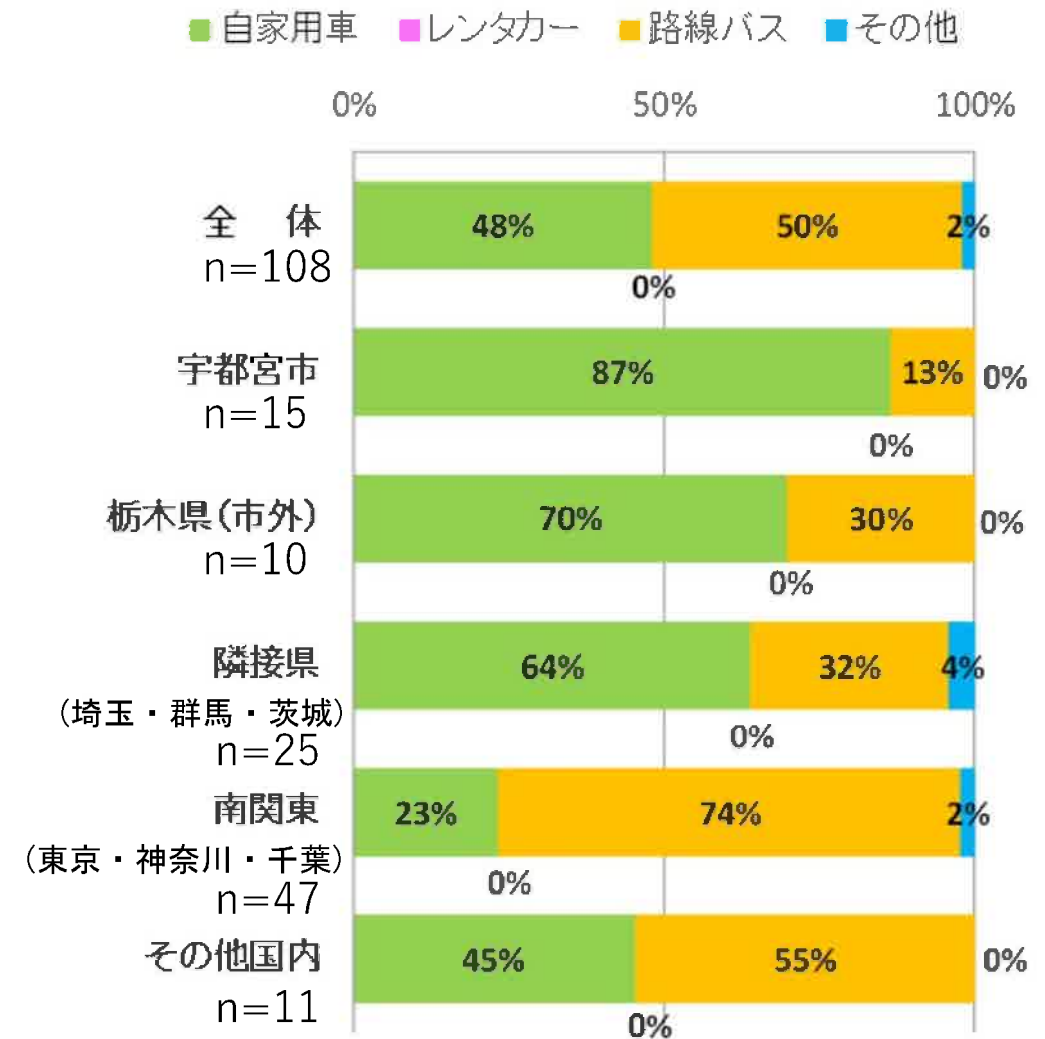
お盆

n=108

訪問回数＜移動手段別＞

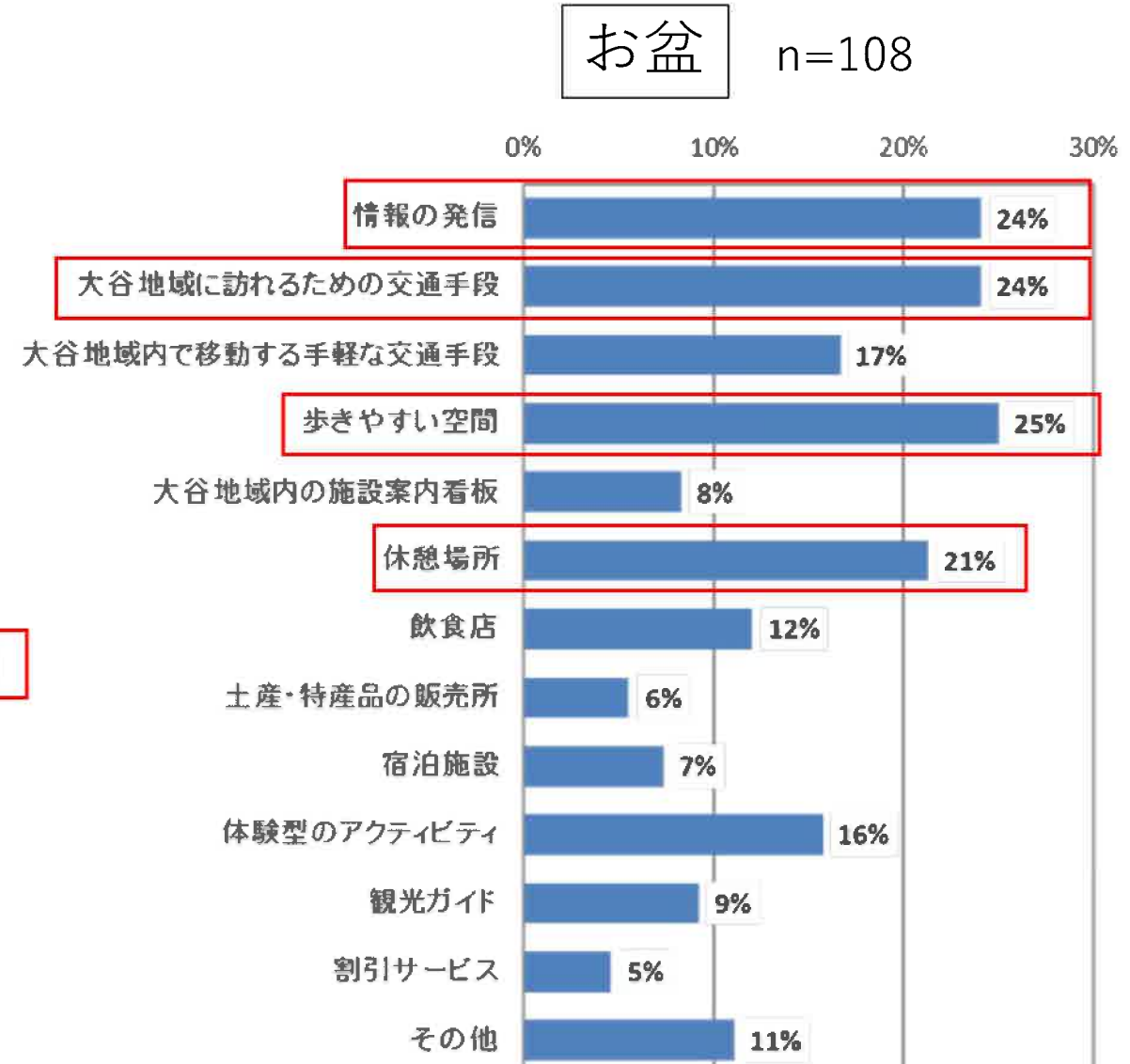
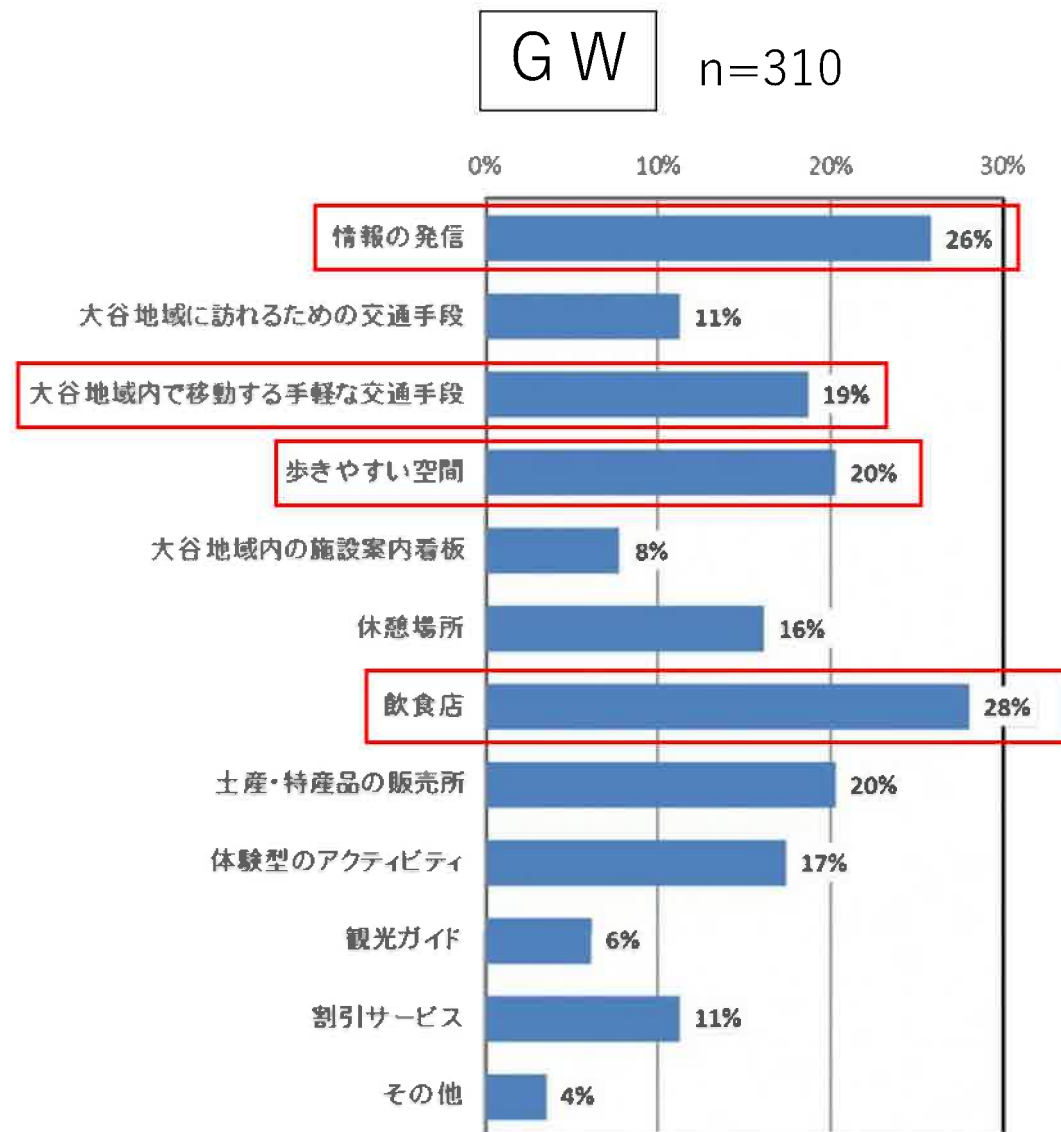


移動手段＜地域別＞



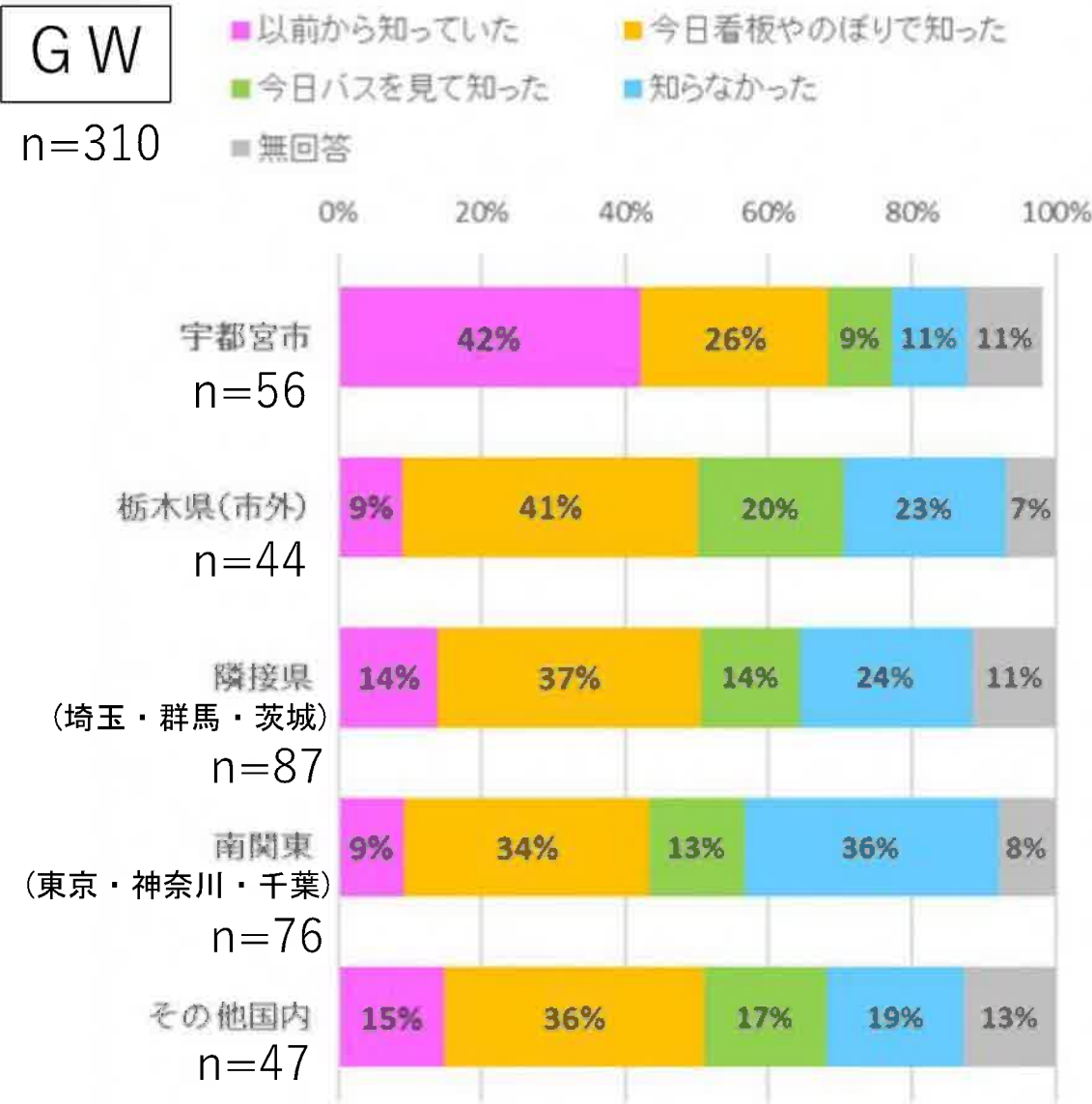
4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査(抜粋) ②充実してほしいものや設備



4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査(抜粋) ③パーク&バスライド認知度



※ 別紙参照

パーク&バスライドの乗車人数の実績(合計)		
実施時期	R 5・GW	R 5・お盆
日数	5日間	5日間
乗車人数	計147人	計55人

- ↑
- R 1 から改善した点
- ①臨時駐車場の配置を地域の近場へ見直した

②運行間隔を30分から15分へ短縮した

③バス停を主要観光施設の付近に設置(2箇所)した

【参考】過去の乗車人数の実績(合計)		
実施時期	R 1・GW	R 1・お盆
日数	10日間	9日間
乗車人数	計35人	計9人

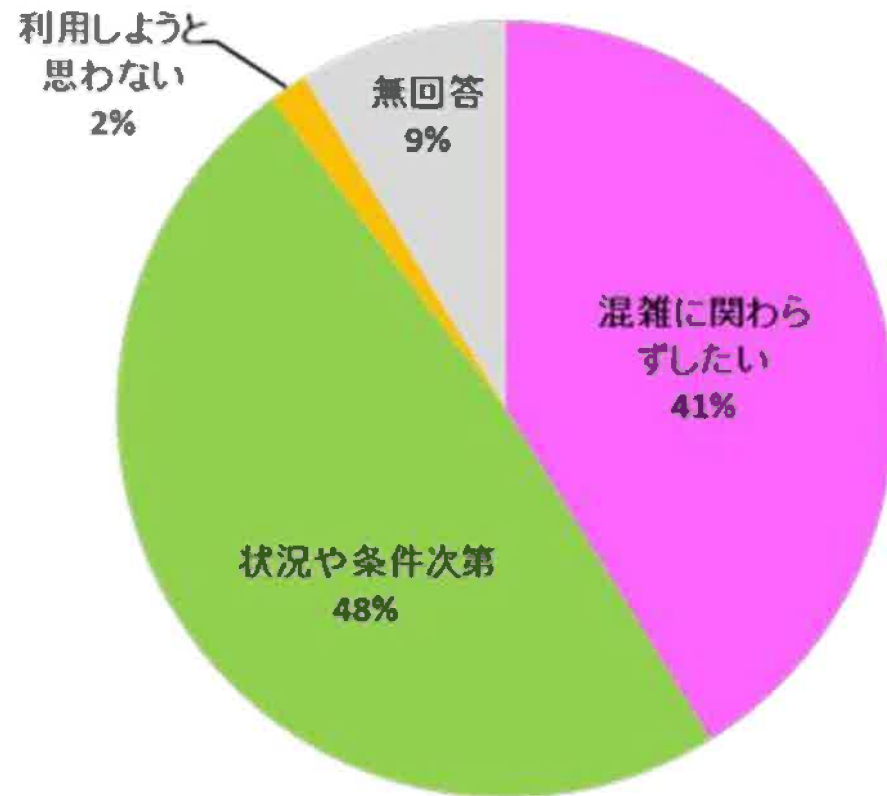
4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査(抜粋) ④パーク&バスライド利用意向・利用条件

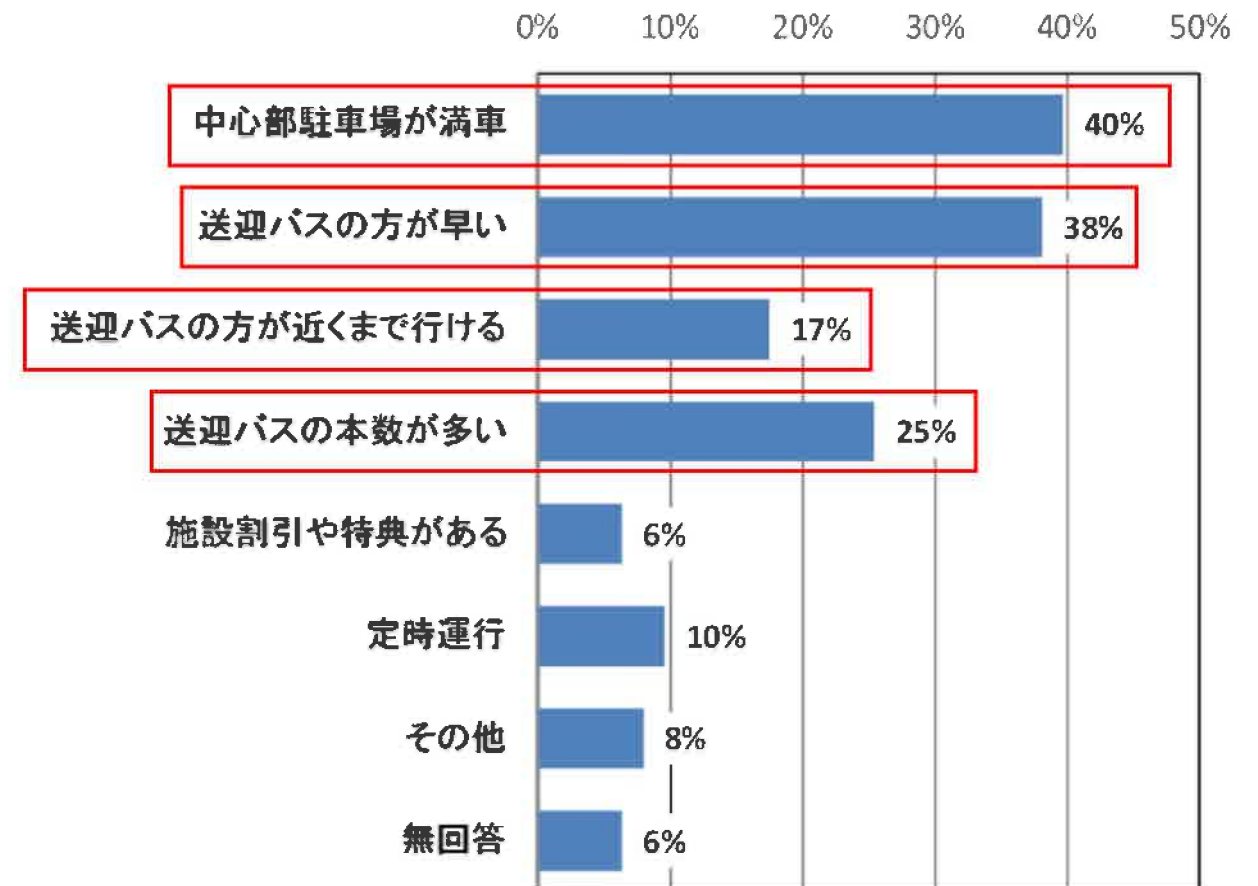
GW

n=310

パーク&バスライド利用意向



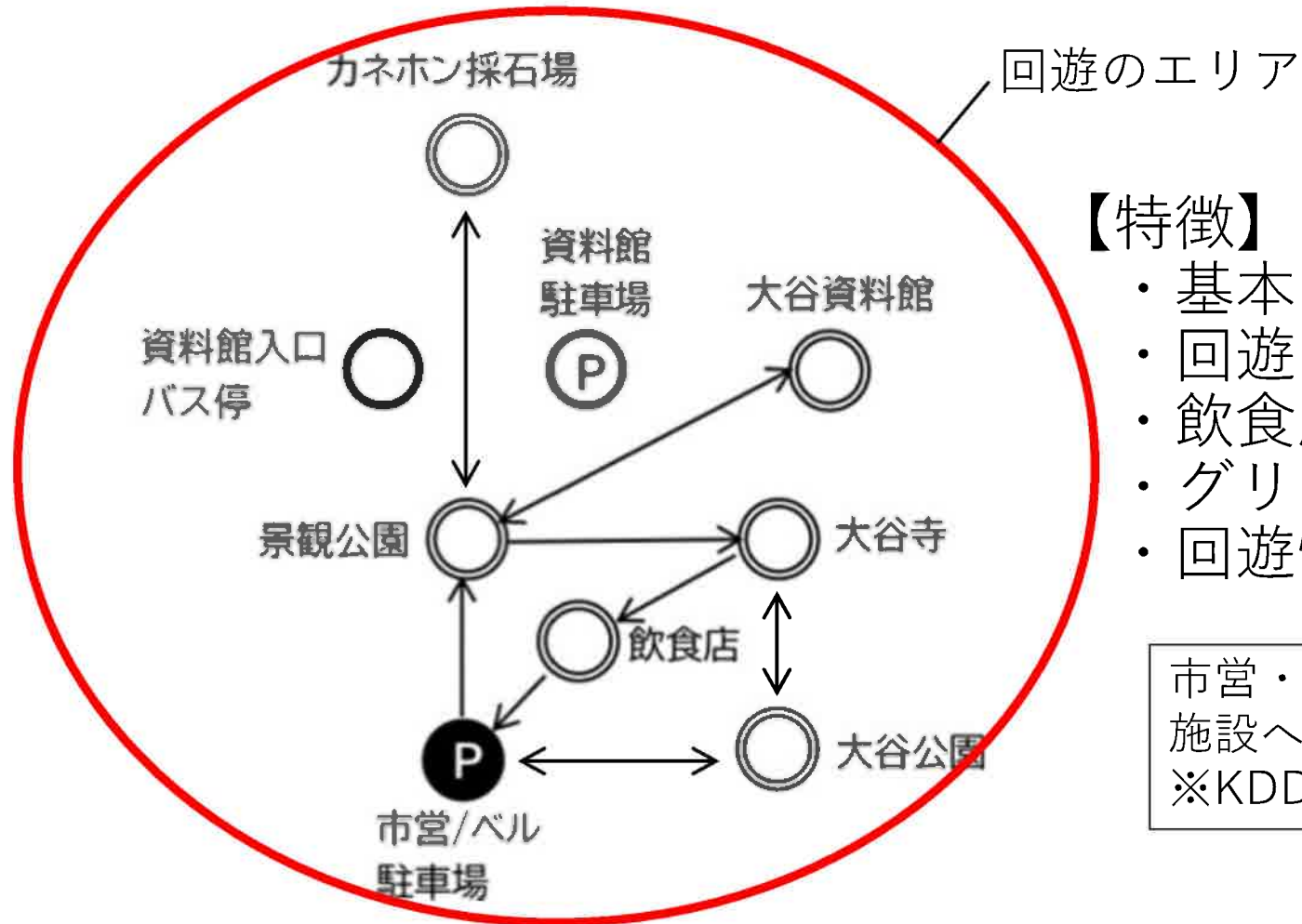
パーク&バスライドの利用条件 (複数回答)



4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査・人流分析の結果(回遊のパターンと特徴)

(1)市営・ベルテラシェを起点とするパターン



【特徴】

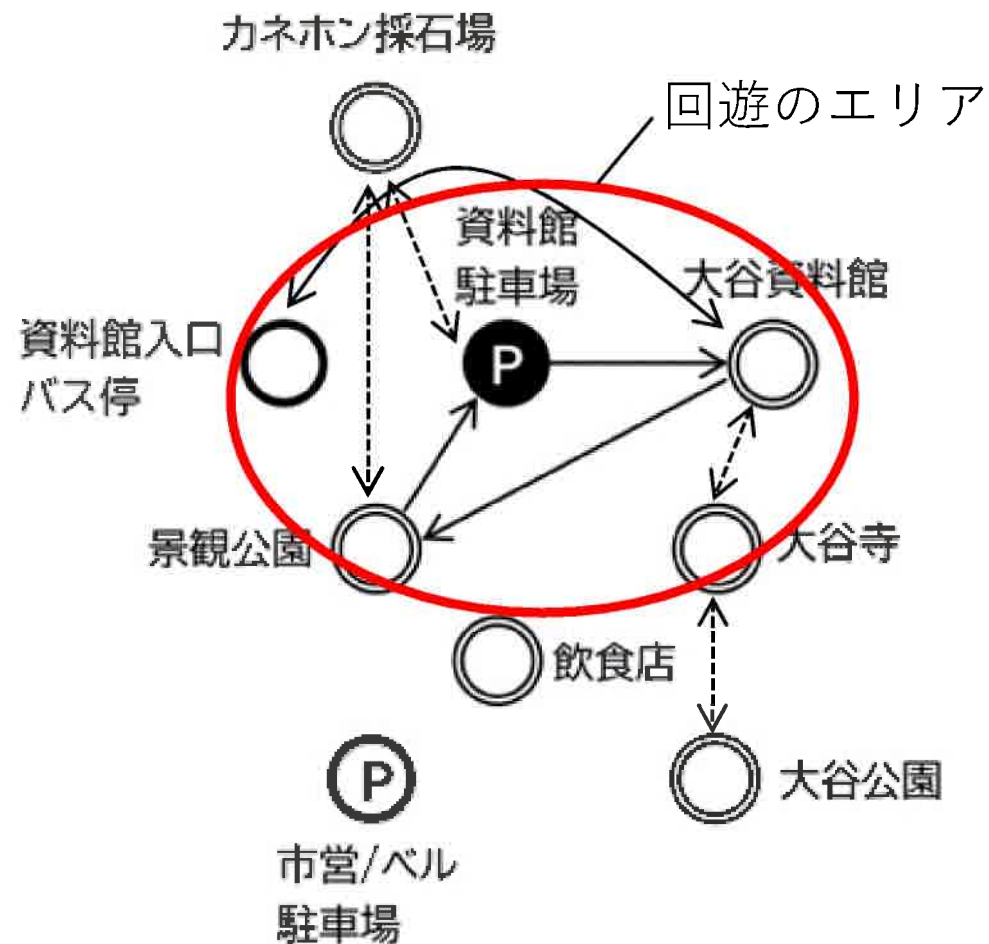
- ・基本は大谷資料館との往復
- ・回遊中に景観公園や大谷寺への立ち寄り
- ・飲食店へ立ち寄るケースが増える
- ・グリスロを利用する機会が多い
- ・回遊性に富んでいる

市営・ベルテラシェ来訪者のうち、約7割の方が他施設へ回遊(GW・お盆期間)
※KDDI位置情報サービスによる人流分析データ参照

4. 令和5年度の実施結果について

アンケート調査・人流分析の結果(回遊のパターンと特徴)

(2)大谷資料館を起点とするパターン



【特徴】

- ・大谷資料館と景観公園の立ち寄りが中心
- ・追加の立ち寄り先として大谷寺，大谷公園，カネホン（グリスロ利用）
- ・市営・ベルテラシェまで足を伸ばすケースは少ない
- ・路線バス利用者は，関東自動車(株)が販売する「大谷観光一日乗車券」の利用者が多い
- ・一日乗車券を利用しないバス利用者は，資料館のみの場合がほとんど
- ・飲食は大谷地域以外が多い
- ・パターン(1)と比較すると回遊性が低い

約6～7割の方が大谷資料館のみの来訪(GW・お盆期間)
※KDDI位置情報サービスによる人流分析データ参照

4. 令和5年度の実施結果について

まとめ

観光入込客数の推移	大谷地域への入込客数は年々回復傾向にあり、 今年のGWやSWはコロナ前と同等の来訪 があった。
課題① パーク＆バスライドの改善	パーク＆バスライドの利用者数は、令和元年の実験時より増えたものの、利用時間ごとの乗車人数や快適な周遊環境の向上に向けて、更なる 認知度や利便性の向上を図る必要 がある。
課題② 公共交通の利用促進	観光客の約3割を市内・県内 からの来訪者が占める中、その 多くが自家用車で来訪 しているため、 車以外でも快適に来訪・周遊できるようにしていく必要 がある。
課題③ 観光・周遊機能の充実	「 情報発信 」「 飲食店 」「 歩きやすい空間 」「 交通手段(大谷地域内外) 」「 休憩場所 」の充実を求める意見が多いため、更なる 移動・滞在環境の向上を図る必要 がある。
課題④ 拠点性の向上	市営大谷駐車場・ベルテラシェを起点 とした回遊パターンが最も 地域全体での周遊や滞在に繋がっている ため、観光・周遊拠点としての 大谷コネクトの機能を強化していく必要 がある。

5. 令和6年度の取組(方向性)について

課題①の対応案 パーク＆バス ライドの改善	(継続) パーク＆バスライドの定着に向けた改善 ➤大谷コネクトの供用開始やその他の道路改良など，大谷を取り巻く環境の変化を踏まえながら，臨時駐車場の配置や運行ルート・便数の見直しのほか，パーク＆バスライドの利用のみならず，大谷地域内の移動手段としての活用を図る。
課題②の対応案 公共交通の 利用促進	(拡充) 路線バス等公共交通の利用促進 ➤公共交通と地域内の移動手段との連動性を確保する。 ※セット券の販売等 ➤バス停への屋根・ベンチの設置など，待合環境の向上を図る。
課題③の対応案 観光・周遊 機能の充実	(継続) 見る・食べる・遊ぶといった観光・周遊を支える機能の充実 ➤飲食・物販などの立地誘導，魅力ある観光景観の形成，安心安全な歩行空間・休憩スペースの確保等に取り組んでいく。
課題④の対応案 拠点性の向上	(新規) 大谷コネクトを中心とした観光案内・周遊機能の強化 ➤来訪者にまずは大谷コネクトを訪れていただくための情報発信や安全・快適な周遊ルートを案内する看板等のサインを充実していく。 ➤大谷コネクトを発着点とした様々な移動手段の充実を図る。